

第2回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第2回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 平成28年10月28日(水) 午後1時半から午後3時
- 3 会場 東久留米市役所7階 701会議室
- 4 出席委員 石橋委員(副会長)、一木委員、稲田委員、井上委員、大山委員、岡野委員、神谷委員、小松崎委員、白井委員、高室委員、田口委員、鶴岡委員(会長)、時任委員、戸部委員、宮下委員、村上委員 以上16名
- 5 欠席委員 伊藤委員、増田委員 以上2名
- 6 事務局 小堀介護福祉課長、遠藤健康課長、高柳国民健康保険係長(保険年金課長欠席の為代理出席)、三上係長、大川主事、小高主事
- 7 傍聴人 0名
- 8 次第 第2回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
 - (1) 開会
 - (2) 配布資料の確認
 - (3) 議題
 - 議題1 第1回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会要点筆記会議録(案)の確認
 - 議題2 課題検討アンケートの実施結果について
 - 議題3 多職種研修兼市民向け講演会の開催について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 9 配布資料
 - 【資料1】 第1回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録(案)
 - 【資料2】 課題検討アンケート
 - 【資料3】 課題検討アンケートの結果について
 - 【資料4】 課題検討アンケート 資料編
 - 【資料5】 入院時地域情報連携シートの試行使用について(多摩小平保健所作成)
 - 【資料6】 多職種研修について(案)
 - 【資料7】 在宅療養シンポジウム～アンケート集計結果の報告～(在宅療養相談窓口作成)
 - 【その他】 参考資料 パンフレット等

10 第2回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催

(1) 出欠席者等の確認

- ・出席者 16名、欠席者 2名。定足数に達しており会議は成立
- ・傍聴人 0名

(2) 議 題 (要点のみ筆記)

① 議題1 第1回東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会要点筆記会議録(案)の確認

内容確認のみの為省略

② 議題2 課題検討アンケートの実施結果について

事務局より「【資料3】課題検討アンケートの結果について」から抜粋し報告。

【会 長】 本件について何か意見等はあるか。

【委 員】 多職種研修の内容について、アンケートの回答結果からは「認知症の疾患の理解と対応について」のテーマが一番多いが、このテーマで実施する場合は、例えば認知症があるにもかかわらず車の運転をやめてもらえない等の具体的な内容で実施するのがよい。

【委 員】 多職種研修を実施する場合は、困難事例等の具体的な事例で実施するのがよい。また、アンケートの回収率について63.6%となっている。回収率としては少なく感じるがいかがか。

【会 長】 アンケートの回収率については、郵送で行った場合は通常3割程度の回収率になることが多い為、まずまずの回収率であると考ええる。

【委 員】 今後の協議会では、アンケート結果の「知らない」や「いいえ」の回答が減少していくように取り組む必要がある。また、今後も同様のアンケートを実施し、周知がどのくらい進んでいるかの検証をしていく必要がある。

【委 員】 今回のアンケート結果について、回答をしていただいた事業所に返す必要がある。また、アンケート結果から抽出された課題や疑問点等については、行政の担当の部署や該当の職種に投げかけた上で対応を協議できるとよい。

【委 員】 お薬手帳一つとっても、詳しい情報を記入している場合とそうでない場合がある。そして、お薬手帳は職種間での情報共有を前提としたものではない為、既存のツールを活用して情報共有する場合には、各職種間で共通認識を持った上で臨む必要がある。

【委員】 医療と介護の連携の上で、食事の事が置き去りにされることが多い為、意識して臨んでいきたい。

【副会長】 アンケート結果について、今回のアンケートに回答した内容が、どのように自分たちの業務に返ってくるかが見えてくると、今後のアンケートの回収率に影響してくる。

また、研修会については、参加者の医療や介護の制度等について知識の差がはっきりしている場合、症例を通してどのように考えていくべきかをディスカッションしていくタイプの研修会ならば行いやすい。東久留米市では、事業所協議会が毎年、多職種研修を行っている為、すでに顔の見える関係が作られている。

そして、情報共有ツールに関しては患者の個人情報をどう扱っていくかという部分にICTを活用していけるように医師会で取り組んでいる。共通のツールを利用する場合、情報が常に見られ、更新が簡単に行える点を考えるとICTの活用が必要である。また、その場合も情報を簡単に、楽に入力できるものにしなければならない為、医師会の小委員会では検討を進めている段階である。既存のツールでも糖尿病手帳、お薬手帳、介護予防手帳等、と一人が様々な手帳を持っている為、効率のいい方法を本協議会で検討していきたい。

【会長】 事務局は今後、今回あげられた意見について対応の協議を行っていただきたい。続いて、本アンケート結果を踏まえ事務局として見出した課題及びその対応策について、本協議会に提案があるとのことである。それについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】 提案は2点である。1点目は、「1. 地域の医療・介護サービス資源の把握に関すること」について、すでに様々なリストが存在していることから、次のステップとして、市民自身も主体的に医療・介護の情報を収集していく、収集しやすいようにしていく必要があると考え、市民の方が何をどのように情報収集したらよいか考えるきっかけとなります、ガイドブックの作成を提案したい。また2点目として、多職種研修の実施に向け、本協議会の委員の協力を得て研修会に向けた検討会を実施していきたい。

また、本アンケートで在宅療養相談窓口の周知、利用がなされていない状況が判明したので、関係者の方々や市民の方にご理解頂けるよう、委員の協力をお願いしたい。そして、「3. 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に関すること」

について、切れ目が生じやすい入退院時の情報に関して、特に、入院時の情報連携については、多摩小平保健所が主体で、「入院時地域情報連携シートの試行事業」を実施している為、この結果を受けた後に検討していきたい。

【会 長】 今回実施した課題抽出アンケートの結果を踏まえ、そこから見える課題への対応策として2つの提案が示された。一つ目として、介護と医療の情報を掲載した市民向けガイドブックを作成すること。二つ目として、多職種研修を引き続き実施すること。この件について、何かご意見、ご質問等があればご発言をお願いしたい。まずは一つ目の、介護と医療の情報を掲載した市民向けガイドブックを作成することについて何かあるか。

【委 員】 作成したパンフレットをHP上でも掲載をすることは可能か。

【事務局】 HPの運用規定等調べる必要があるが、参考にさせていただく。

【委 員】 問い合わせを受けた際に市内のサークルを調べるのが大変だった為、市内のサークルの情報を含めた形で作成していただきたい。

【委 員】 事業所ガイドブックの内容が引き継がれ作成されるのか。

【事務局】 事業所ガイドブックとは目的が別の冊子である為、全ての内容を引き継ぐものではない。本ガイドブックは、市民が在宅療養をする際の案内となるものとしたい。

【副会長】 体操グループの情報を載せる場合は市内に多くある為、全て調べるのは大変労力がかかる為、市民の協力を得る中で情報収集する必要がある。コマーシャル付きのペーパーは読み手が、市のお墨付きととらえられてしまうリスクがあるので注意していただきたい。また、医療情報は地域医療データベースを活用し情報収集していただきたい。

【委 員】 情報を掲載する場合は、公平性を確保していく必要がある。

【会 長】 事務局は、今出た意見をもとに整理していただきたい。続いて二つ目、多職種研修を引き続き実施することについて何かあるか。

【会 長】 医師会でも多職種研修を実施する為日程が被らないように調整していただきたい。

【事務局】 多職種研修に向けて検討会を年度内に、2回ほど実施したいが協力いただけるか。

【委 員】 主任ケアマネジャーからも参加させていただきたい。

【会 長】 議題2についてはよろしいか。冒頭事務局より提案があったとおり、次回の協議会では、あるいは事務局の方で見落としている課題、また違った視点からのご意見などがあれば伺いたいと思っているので、引き続きの議題としたい。

③ 議題3 多職種研修兼市民向け講演会の開催について

【会 長】 続いて、議題の3「多職種研修兼市民向け講演会の開催について」について説明をお願いします。

【委 員】 資料7を基に抜粋して在宅療養窓口から報告の為省略。

(3) その他 委員より、講演会及び研修会の案内、事務局から事務手続の説明のみの為省略

(4) 閉会

【会 長】 それでは、これを以って、第2回東久留米市在宅医療・介護連携協議会を終了させていただく。次回については、2月の開催が予定されている。具体的な日程等については、近くなつたところで連絡があると思う。委員各位におかれては、今後の会議開催、進行に特段の配慮をいただきたい。

閉会15時